

大学生になって
セックスを覚え夢中になった
幼少の頃からの同級生
女子3人組

白い壁の更衣室内で衣服を脱ぎながら女子たち3人が会話している。

「できあ！やっぱリクのチンポってすごい大きいのよお！」

「ええマジマジッ！？興味あるかも！食べてみたいなあ！」

3人はセックスの快楽にどっぷり浸かってしまった、汚れたビッチ女子大生である。

もう抜け出せない快楽の底なし沼の中で、その強烈な心地良さに浸りながら、四六時中セックスのことばかり考えている。

そして実際、セックスをしない日の方が珍しいほどに、毎日毎日激しい快楽に没入しているのだ。

「明後日ってホテルで乱交する日だったよね??」

「リュウスケとかコウタロウも来るんだよね確か。アズサは来れないんだっけ？」

「あたしセフレのシンタと海に行くんだ」

「いいじゃんいいじゃん海っ！！開放的にセックス出来るでしょ？」

「乱交し放題のヌーディストビーチじゃないんだから、さすがに浜辺では無理かもよお？」

「でも我慢できるう??」

「誰か見ててもしちゃうかもね！！」

「キャハハハッ！！」

脱ぎかけの下着。

ツルツルのわきの下。

メンバーはアキナ、アズサ、マミの3人。

ムッチムチの太ももと、立派に成長した胸。

3人ともセックスのしすぎでとにかくお尻や胸が急成長しているのだ。

3人は現在、自由に使用できる校内のプールでビキニを来て遊泳を楽しんできたばかりだ。

そんな3人だが、実はわずか2年前の○校生時代までは純潔な“処女”であった……。

心のどこかではつまらないなどと感じながらも、何となく真面目な日々を過ごしていたのだ。

更に3人は○校だけではなく○学校の頃から、つまり幼少の頃からずっと同級生として同じ学校へ通っていた、言わば幼馴染のような間柄である。

3人のうち誰か一人が不良になったりビッチになったりと別のルートへ走ることなく、並んで真面目に過ごしてきた3人。

アズサとマミに至っては、金髪でド派手な今とは別人のように○校時代はメガネをかけた女子生徒だった。3人とも黒髪でスカートも長く、とにかく内なる“弾きたい”という想いを外には出さず秘め続けていたのだ。

そんな3人が大学に入り、とあるサークルで男子メンバーと6Pでセックスをして処女を卒業したことを皮切りに、一気にビッチ街道へと突入！！

——体験版はここまでです——